

はじめに

富山市郷土博物館（富山城）は、約2年半にわたる改修工事を終え、平成17年11月3日に、富山城の歴史を紹介する博物館としてリニューアルオープンしました。展示室に入ると、そこには新しい展示テーマ「富山城ものがたり」の世界が広がっています。

富山城の歴史といっても、あまり詳しいことは知らないなという方が多いのではないのでしょうか。それでは、簡単に富山城の歴史を振り返ってみましょう。

富山城は天文12年（1543）に、神保長職によって築られました。実際の縄張りは家臣の水越勝重によってなされたと伝えられています。その後、越後長尾氏（上杉氏）や一向一揆などによる争奪の場となり、さらに佐々成政、前田利長の居城となりました。次いで加賀藩から富山藩10万石が分藩し、寛永16年（1639）に初代藩主前田利次が入城しました。以後、明治時代に至るまで、約200年の間、富山前田家13代の居城でした。

現在の城址公園は、この富山城の跡地であり、郷土博物館も城址に建っています。でも、現在の公園や街並みを見て、富山城の姿を想像することは難しいと思いませんか。そこで、博物館のリニューアルオープンを機に、まずは今私たちが暮らす街と昔の富山城のつながりを知るため、明治時代以降の富山城址の変遷を見てみることにしましょう。



明治時代後期の富山城址

石垣を南から堀越しに見たところです。現在は右の石垣上に天守閣が建っています。

富山城と私たちが暮らす街は、どのような糸でつながっているのでしょうか。